

2022・6・1 更新

感染リスクを軽減させた競技会運営に向けた対応について

競技者・チーム関係者（指導者・コーチ・部員）配慮事項

一般財団法人神奈川陸上競技協会

本協会主催競技会に関わる競技者・チーム関係者（指導者 コーチ 部員）の方々は、つぎの事項を遵守して競技会に参加してください。

【競技者・チーム関係者（指導者・コーチ・部員）対策】

- 1 競技者・チーム関係者は、大会1週間前から検温を義務付け、指定の「大会前／提出用新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート」に記入し大会本部へ提出する。一般・大学生・クラブチームは、チーム代表者が提出すること。
但し、中学生は中体連、高校生は高体連でそれぞれ指示された書類を提出すること。
また、提出前に、提出するデータをコピーまたは写真に撮り、保管すること。
未提出者は、競技会の出場や会場への入場はできない。
- 2 「大会前／提出用 新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート」は、県陸協HPからダウンロードし、代表者を通じて参加者へ配布すること。
- 3 主催者は、「大会前／提出用 新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート」の個人情報の取り扱いには充分注意しながら1ヶ月保管し、適正かつ速やかに廃棄する。また、この個人情報を保健所、医療機関等の第三者へ提供する事がある。
- 4 不確かな競技者・チーム関係者がでた場合は、その場で検温を実施し状況によっては、競技会への出場や会場への入場を許可しないことがある。
- 5 競技の時以外（招集中・移動中・待機中）は、マスクを必ず着用する。
- 6 競技会の規模、目的に応じて参加資格を制限することがある。
 - ・年齢、参加資格記録等でレース数、組数を調整することがある。
- 7 更衣室の使用は、短時間にする。（※シャワールームは原則使用禁止とする。）
- 8 体液の付着したゴミは、自己責任で持ち帰って処理する。
- 9 中長距離レースでは、少人数でも2段階スタートで実施することがある。
- 10 開会式、閉会式、表彰式は原則、実施しない。
- 11 フィールド種目の待機中、フィジカルスタンスを確保する。
- 12 投擲器具や滑り止め（炭酸マグネシウム）は、共用できる。但し、滑り止めは、競技者自身が容器に手を入れて着ける形ではなく競技役員や補助員から適量を受け取る方法、または、競技者の持ち込みも可とする。投擲器具についても各自持ち込みを可とする。
感染防止の観点から投擲器具・滑り止めは、持ち込みを推奨する。
- 13 フィールド種目の公式練習は、競技役員が1人ずつ順番に競技者を呼び出す方法で実施する。

- 14 フィールド種目の待機中、競技者同士の会話は、極力避けマスクを着用する。
- 15 声を出しての応援、集団での応援は、禁止する。
- 16 ウォーミングアップは、個別に行い集団によるものは、禁止する。
- 17 密集回避のために競技者へ付き添う者は、競技場内及びウォームアップ場への入場は禁止する。
- 18 競技場施設への入場方法は、3密を避け、転倒等の事故が起こらないよう開門時に係員が指示するのでそれに必ず従うこと。各団体が並ぶ人数は1名とする。
順番に並ぶ際は、お互いにフィジカルディスタンスを確保して会話も極力避けること。
- 19 開催1週間前の体調管理・検温の義務と主催者が指定した方法による健康管理チェックの報告及び終了後2週間の体調管理・検温を行う。

20 観戦の観客への対応事項

開催地の自治体の指示に従い、感染予防対策をした上で観客の有無を慎重に判断する。
主催者がつぎのような感染予防対策がとれない場合は、無観客とする。

- ①発熱、咳、倦怠感、咽頭痛などが見られる観客のチェック。
- ②入場時の濃厚接触を減らすための対策。(待機列、入場列ゾーン)
- ③サーモメーター等を利用した入場時の体温チェック。
- ④入場時の手指の消毒とマスク着用の徹底。
- ⑤観戦時の濃厚接触を減らす工夫。
 - ・入場者数の制限（開催地の指針と会場規模にあわせて設定する。）
 - ・他の観客との十分な距離を空けての観戦と移動の制限。
 - ・飛沫感染予防の応援歌、声援の禁止。
- ⑥退場時の混雑の緩和対策。
- ⑦観客から感染者がでた場合に備えて周囲に座っていた方を特定できる対応が可能なこと。

<対応内容>

- ・観客が何時にどこの席・エリアに座ったのか申告してもらう。(座席番号、連絡先)
- ⑧①～⑦の対応について人的配置が十分できる。